

「平成29年度に実施した仕事」の振り返りシート

記入日 平成 30 年 3 月 30 日

仕事の内容	高齢者住宅事業					
担当部署・課長名	高齢介護	課	高齢福祉	係	課長名	伊野宮 崇

この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。

【施策】 高齢者保健福祉の推進

(総合計画書 51 ページ)

予算名	3	民生費	1	社会福祉費	3	老人福祉費	6	高齢者住宅事業費
1 この仕事の目的	① 誰(何)を対象にしていますか。 <small>(市借上げ) 市内に引き続き1年以上居住し、住宅に困窮し、かつ、自力による住宅の確保が困難な単身高齢者または高齢者のみの世帯。 (都営) 都内に3年以上居住し、住宅に困窮し、かつ、自力による住宅の確保が困難な単身高齢者または高齢者のみの世帯。</small>				① ①の対象数や量を、あらわすもの(対象指標)			
	→ 単身高齢者世帯数・高齢者のみ世帯数							
	② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に] 高齢者が安心して生活できる住宅を提供することにより、高齢者の生活の安定と福祉が増進している				② ②の状態になった数・量をあらわすもの(成果指標)			
→ 供給住宅数								
③ そのために何をしましたか。 緊急通報システムとバリアフリー設備がついた住宅(シルバーピア)を高齢者に提供する(都営住宅には、高齢者在宅サービスセンターが併設している)。また、住宅には管理人(ワーデン)が居住し、住宅の維持管理、入居者の安全確保及び日常生活の相談・助言を行い、高齢者が安心して生活を送れるための配慮をしている。現在、市内にはピア芋窪(借上げ市営)・ピア向原(都営)、ピア清原(都営)の3か所に計4棟・55戸のシルバーピアが整備され、4人のワーデンが配置されている。				③ ③をどのくらい行いましたか(活動指標)				
→ 事業費総額								

2 指標の推移	対象指標	①の数値	単位	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度目標	平成31年度目標
	成果指標	②の数値	戸	55	55	55		
	目 標	②の目標値					55	55
	目標値設定の考え方		現状維持					
	活動指標	③の数値		21,769,892	21,569,291	21,633,886		

3 経費	事業費(実績)		円	21,769,892	21,569,291	21,633,886	※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費(再任用職員以外) 年間単価は、8,253,000円 時間単価は、4,200円 で計算してください。 【算出根拠】平成28年度決算数値。(退職手当組合負担金、共済費も含む。)
	財源	一般財源	円	13,019,063	12,961,875	13,439,237	
		特定財源	円	8,750,829	8,607,416	8,194,649	
		(うち受益者負担)	円	2,856,829	2,688,916	2,291,149	
	人件費(目安)	所要人数(再任用以外)	人	0.1	0.1	0.1	
		所要人数(再任用)	人	0.0			
		職員人件費(再任用以外)	円	823,000	826,700	825,300	
職員人件費(再任用)	円	0	0	0			
事業費+人件費		円	22,592,892	22,395,991	22,459,186		

この仕事における市の裁量 市の裁量は大きい

4 環境変化	この仕事の開始時期(開始年度)、何を目的に開始していますか。 住宅に困窮している高齢者に住宅を提供することにより、高齢者の生活の安定と福祉の増進を図るため、平成6年4月から借上げ市営住宅ピア芋窪の事業を開始。続いて、都営住宅の建て替えに伴い、平成12年にピア向原、平成14年にピア清原を設置。	
	開始当初と比較し、状況の変化はありますか。 介護保険制度の充実をはじめ、サービス付き高齢者向け住宅など、新たな高齢者住宅施策が進み、一般民間住宅のバリアフリー化も進展していることから、シルバーピアといったこれまでの高齢者住宅施策の必要性はやや低下してきている。	
	この仕事に関して、平成29年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について	

5 市民等の意見	この仕事に関して、平成29年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について	
	市の借上げ住宅において、平成28年度末に空き家となった高齢者のみ世帯が2戸あり、平成29年度中に5回募集をかけた。1世帯は入居となったが、1世帯は辞退。平成29年度末現在、1戸空き家となっている。	

仕 事 の 内 容	高齢者住宅事業			
担当部署・課長名	高齢介護	課	高齢福祉	係 課長名 伊野宮 崇

6 市民協働	(1)市民協働の取組を行いましたか。ある場合は、取組手法の種類から番号を選択しご記入ください。(複数回答可)			
	取組みは無い	取組手法	【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換(広報媒体:) ⑦後援・場の提供 ⑧その他()	
(2)平成30年度に向け、さらに適した協働の形態とするために「考え」「気付いた」点をご記入ください。				
7 課 題	(1)平成28年度の課題についての解決に向けた取組や、事務改善など、平成29年度に実施したことをご記入ください。			
	特になし			
(2)この仕事を振り返り、課題をご記入ください。				
市の借り上げ高齢者住宅の空き家状態の解消				
8 今 後 の 方 向 性	(1)仕事の方向性(「7 課題(2)」を踏まえた具体的な改革・改善案など) 借上料及び借上期間終了後の方向性について検討する必要がある。			
	(2)上記(1)の改革・改善案を実現するために、克服すべき問題点、必要な調整・準備等を具体的にご記入ください。 現在の借上料について現状に合わせて試算。所有者との調整。			
	(3)改革・改善案による期待成果 上記(1)の改革・改善案を実施することで、成果面と経費面で現状からどのように変わりますか。			
成 果	成果を維持する。		経 費	仕事の経費は維持する。